

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 19 日作成)

小委員会名	都市防火小委員会	主 査 名：加藤 孝明 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	防火委員会	委員長名：萩原 一郎
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	広域避難の問題にとどまらず、最近の市街地状況をふまえて延焼火災の性状そのものについて改めて検討を行うとともに、市街地の防火対策、消防活動にかかる対策について体系的に再整理し、加えて新たな視点から検討を行い、市街地延焼に関して時代的な総括を行う。 初年度： 公開小委員会を年 5 回開催し、次の項目について検討する。 ・大都市と地方都市の典型市街地の実態、及びそれぞれの既存の都市防火対策の課題 ・市街地火災シミュレーションと建築レベルの延焼拡大モデルの接続 2 年度： 公開小委員会を年 5 回程度開催し、1 年目の項目について議論を深める。 ・既存各種の市街地火災シミュレーションの特徴と課題の比較整理 ・各モデルの性能妥当性検証のための方法論の検討 ・火災シミュレーションの比較検証用のデータセットの整備の検討および整備 ・関東地震当時の市街地状況データの再現整備方法の検討 3 年度： 公開小委員会を年 5 回程度開催し、下記について議論を深める。 ・都市大火及び人的被害のリスク評価 4 年度： 大会においてこれまでの成果をもとにパネルディスカッション、あるいは、研究協議会を行う。公開小委員会を年 5 回程度開催し、下記について議論を深める。 ・PD・研究協議会の資料作成を通じて 4 年度までの成果をまとめる ・都市防火対策を支える各種防災対策とその効果に関する整理 PD もしくは研究協議会での議論に基づき議論をさらに深め、学術的知見の体系化をはかり、研究成果の積極的な公表に努める。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：加藤孝明(東京大学) 幹事：梅本通孝(筑波大学)、廣井悠(東京大学) 委員：糸井川栄一(筑波大学)、市古太郎(首都大学東京)、岩見達也(建築研究所)、江田敏男(建築ピボット)、大佛俊泰(東京工業大学)、坂井遼(マヌ都市建築研究所)、佐々木克憲(応用地質)、関澤愛(東京理科大学)、竹谷修一(建築研究所)、西田幸夫(埼玉大学)、西野智研(京都大学)、吉川仁(防災アンド都市づくり計画室)	
設置 WG (WG 名：目的)	無	
2019 年度予算	150,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	無
講習会	無

催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	無
大会研究集会	無
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	無
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 大都市と地方都市の典型市街地の実態に関しては, 2016 年糸魚川市大規模火災などの事例に基づき検討した上で, 既存の防火対策上の課題を整理した。 2. また, 各種防火対策の有効性の検証に役立てるべく, 1923 年関東大震災当時の東京市の市街地状況に再現データ化の方法について史料整理やデータ化の具体的方法の検討を進めた。 3. 市街地火災シミュレーションと建築レベルの延焼拡大モデルの接続に関して, 既存の各種シミュレーションの適用条件, モデル構造, 入出力データ項目等の要件を分類し整理を行った。 4. また, 市街地火災シミュレーションの標準的性能評価手法の確立を目指して, verification と validation の方法論について検討を進めた。 5. 次年度以降の活動を充実させて展開すべく, 鹿島学術振興財団の研究助成制度に応募した。
委員会活動の問題点 ・課題	無